

# San Antonio River Walk

「夢の神通回廊」を目指して

サンアントニオ・リバーウォーク 川の街誕生物語 ④

## リバーウォークの 美しい景観、音環境を巡る



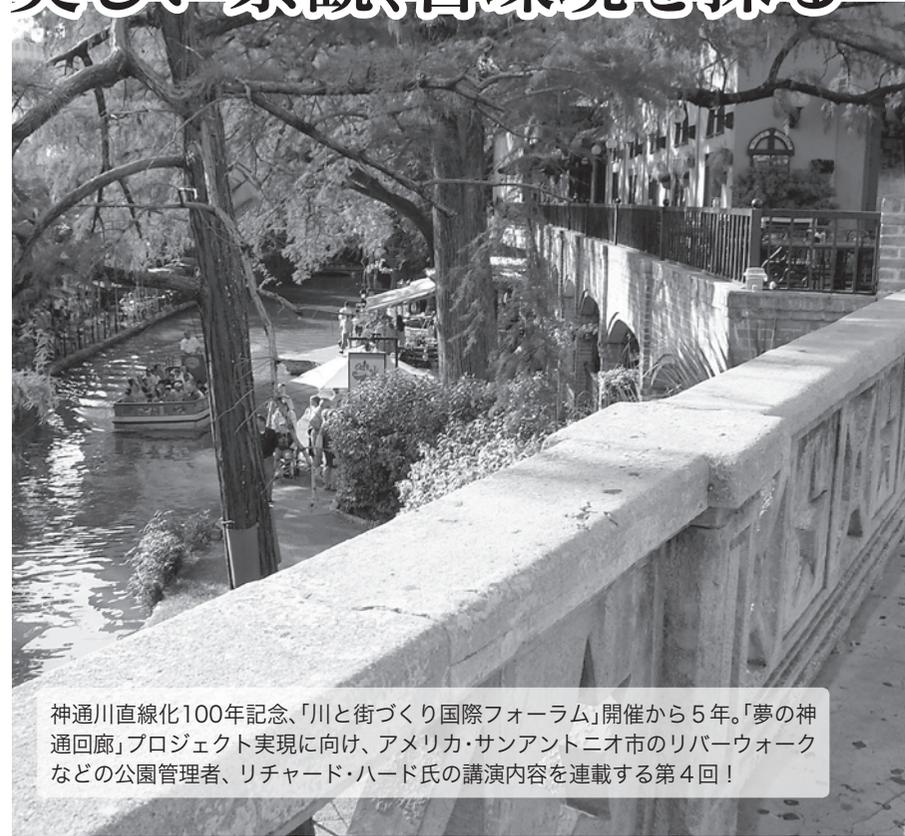
係員が音の大きさを測定している

1995年、レストランや商店の入ったテナントビル、「サウスバンク」を建設するため、地表面から川のレベルまで5メートル掘り下げられました。橋の下にレストランがたくさんできている

のが見えます(写真右頁)。これは、非常に成功した概念だといえます。

1995年のサウスバンク建設以前は、リバーウォークのレストランは、ほとんどが地元所有、経営でした。しかし、この建設によりチェーン店の第一号、ハードロックが進出を試みました。しかし、リバーウォークの歴史や、建築基準に無知なことから、最初の計画は許可されませんでした。それは、テーブルのスペースが最優先で、景観は二の次だったからです。そこで設計者と調整し、テーブルスペースを削り、木々を増やし、景観をよくしました。

私たちは、デザインをもっと適切なものにしようと努力したわけです。その結果は大当たりでした。実際、人が押し寄せすぎて、騒音と、道をふさぐ人の列が問題に



神通川直線化100年記念、「川と街づくり国際フォーラム」開催から5年。「夢の神通回廊」プロジェクト実現に向け、アメリカ・サンアントニオ市のリバーウォークなどの公園管理者、リチャード・ハード氏の講演内容を連載する第4回！

なったほどです。この問題を解決するために、市は条令を制定し、列をつくること、敷地内で、72デシベル以上の騒音を出すことを禁止しました。公園警察は、条令違反を取り締まります。

リバーウォークの条令は、店舗の看板は1・6メートル四方のも一つのみに定めています。すでにある建物へのあらゆる変更、新築は、市に任命された15名のメンバーからなる「歴史建築審査委員会」の承認を得なければなりません。ですから、それぞれの店は、一つしか看板を持つことができなわけです。それでも、色々な個性を出した看板ができています。そして、店は一つだけメニューボードを持つことができます。

その他の新しいプロジェクトとして、市の中央図書館を、国際センターに変更するという、再開発

計画がありました。最終案では、もっと川に向かって開けています。公園管理局の二つあるマリナー(係留場)の一つが、この建物の地



◀図書館が国際センターに変更され、その地下二階に遊覧船の係留場(マリナー)が作られた



下にあります。大きく外に向けて開いたバルコニーが2階にあり、この建物の地階と、その横にある橋の地下にマリナーがあるわけです。

1926年に作られた、バイパス水路のコンクリート壁を目立たなくするため、歴史的メインプラザと、リバーウォークを結ぶ、歩道のある公園が作られました。地元の石で建設され、地元の草木で造園された公園が、地上と川とを結びます。

リバーウォークの最新商業施設は、バレンシア・ホテルです。2002年にオープンしました。建物自体を後ろにひいて、ひいたスペースに、バルコニーやパティオを設計しました。左下に見える塔のようなものは、以前からここにあったものです。市の歴史保存担当者たちは、これを残して、景

▶バイパス水路のコンクリートを目立たなくするため、地上とリバーウォークを結ぶ歩道のある公園が作られた



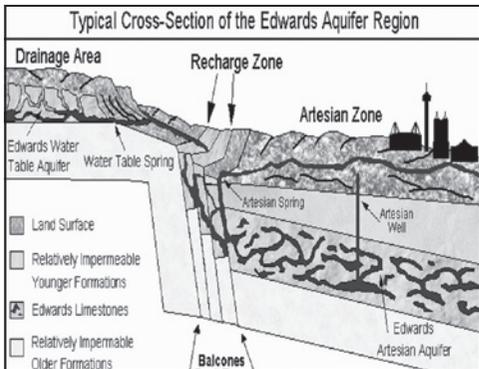
サクラパックス(株)

# 水

## 100年洪水との戦いに、突破口を開いた巨大トンネル

水、地下水は、テキサスの貴重な資源のひとつです。何世紀にもわたって、人々がこの地方に住み続けたのは、豊富な湧き水のおかげです。エドワード地下貯水層は石灰岩の大きな地下洞窟で、1万2千年に渡って文明を育んできました。今日、貯水層は170万人の重要な水源となっています。それはまた、サンアント

観に組み入れるように主張しました。空間があるため、川から見上げて見ることができるようです。



も、しばしば登場します。  
 1900年代の、深掘井戸の集中的な利用によって、このような噴出口がいくつも作られました。水の需要が高く、貯水層の水位が低いため、現在は見られません。乾燥した季節が続くと、貯水層の水位は低くなり、上流の湧き水は



ニオ川の源流であり、市にとっては、唯一の飲み水の源です。

エドワード貯水層の南部は、世界でも珍しい地下水源で、300km東に伸びています。それはまた、絶滅危惧種を含めた珍しい水棲動植物の唯一の水源地です。市、町村の地域社会、農場や牧場、工業用水、また、レクリエーション目的として、この貯水層の水を利用してきます。用途の多様性がこの地方の生きものと、人々の生活に対する貯水層の重要性を物語っています。

出なくなってしまうこともありまます。人工的に川の流れを維持するため、電気ポンプが備え付けられ、貯水層から水が汲み上げられています。そうでなければ、川は干涸びてしまいます。2001年、流量を増やすため、水処理施設からの導管は、上流までつながりました。

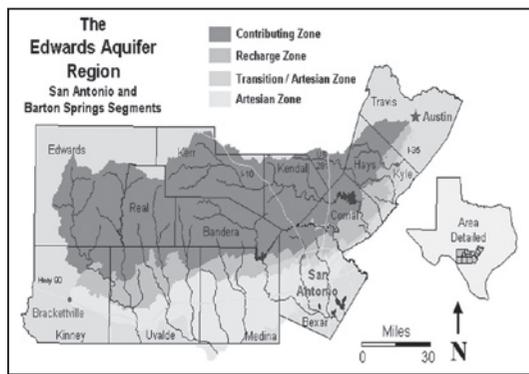
1819年から1913年の間に、サンアントニオを襲った大洪水は15回です。特に1921年と1946年の壊滅的な大洪水は、市にさらなる治水対策の必要性を

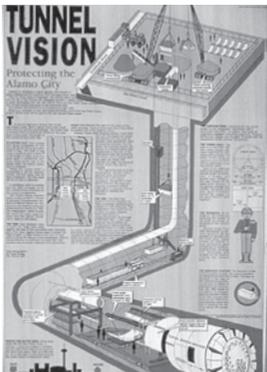
# 巨大トンネルで 100年洪水を克服



リバーオーク内の水位を1mに維持するため、下流に水門が設置された。洪水になると、水門は倒され放水される。

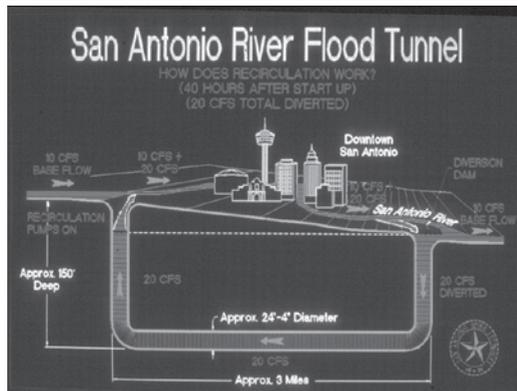
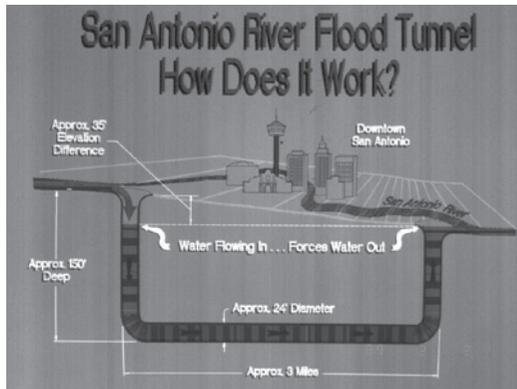
貯水層は、雨が通水性のある石灰岩を通り、下の岩盤層へしみ込み、濾過されることによって水が溜まります。そのため、市にとっては再生可能資源です。貯水層の水位はとても重要であるため、新聞に掲載され、人々の日常会話に





ほとんどの橋が破壊されてしまう、ということを意味します。解決策はトンネルでした。サンアントニオ川トンネルは、雨水を町の下に通すことによって、中心地を洪水から守るため設計されました。逆サイフォン原理を使っ

知らしめました。その後行なわれた、オルモスダムの建設と、川の直線化、拡幅工事は、川の流水可能水量を増やしました。しかし、洪水再発の恐れ、治水対策の強化は、常に市の行政の焦点となっています。リ



パーウォーク内の水位を管理するため、下流に水門(ダム)が設けられました。水門なしでは、リパーウォークの水はなくなってしまう。洪水が起こると、公園管理者がこの水門を倒して放水します。これは水位維持と共に、洪水

した。100年洪水から、どうやって中心地を守るかです。これは、統計的に大きな洪水が、100年周期で起こるといふものです。従来の治水技術では、中心地の水路を掘り下げ、幅を広げるといふようなことをします。つまり、多額の費用を使っても、多くの橋を、広くなった水路にかけかえることになるのです。つまり、美しい川の歴史を伝える、リパーウォークの魅力のアンテナはトンネルです。サンアントニオ川トンネルは、雨水を町の下に通すことによって、中心地を洪水から守るため設計されました。逆サイフォン原理を使っ

対策のための施設でもあるわけですが。もし必要であれば、この水位を下げる必要があります。いつもは遊覧船が通れるよう、1mの水位を維持しなければならぬので、この水門で調節しているわけです。アメリカ国内の、洪水対策計画担当の政府機関は、陸軍工兵隊です。かつて、彼らの洪水対策は、広く、まっすぐな、緑のない、コンクリート壁の水路の建設でした。中心地の南にある歴史的な地区には、受け入れられない対策でした。

洪水対策を行なうため、サンアントニオ川協会は陸軍工兵隊と協議を重ねました。工兵隊は、コンクリートのバイパス水路を建設することになり、市は景観、歩道、照明施設を担当しました。しかし、ある問題を抱えていま